



◆ 上原美優さまの死の真相・・・。

2011.5.15

報道されましたように

内田裕也さまが「逮捕」されております。

女房ドノの樹木希林さまは会見に応じられて

「こういう事件が起きるのが遅かったなあ、

今回サラシテいただいてありがたい」

と話されております。

なにやら手前どもが逮捕されたとき

我が女房ドノが申されるようなコメントでございます。

長年亭主の行状に迷惑をかけられ続けてきた女房ドノの立場では

「いつかこの罰当たりを神様は成敗して下さるに違いない」

とでも思わなければとてもヤッてられない気分であったでしょう。

ようやく「天の審判」が下るときを迎えて

溜飲を下げスカッとされた樹木希林さまが吐かれた、

前述のセリフになんとも肩身の狭い思いを致しております。

クワバラクワバラでございます。



歌手や芸能人を「目指す男」の本心はただ一つ、
有名になって好きな女とオ○ンコをシコタマやりまくりたい、でございます。

俳優の演劇論やロックの反体制の歌詞などはアクセサリーでございます。
そんなものは女性をタグリ寄せる「コマセ」でございます。
「ああ、ステキ」と言われたい一心での
「カッコつけしい」なのでございます。

内田裕也さまのこれまでの人生は、まさしく「ロック野郎」にふさわしい
「ロープライフ」いわゆる「ヒモ人生」そのものでした。

麻薬と酒に溺れてヘタな歌をガナリ立てることしか能の無い
「社会不適格者」のロック野郎には、
悲しいかな女の陰唇にぶら下がるしか生きる手ダテはないのでした。

古くは島田陽子さまとの関係がそうでした。
陽子さまは可愛そうに裕也さまの「ロック魂」にたかられて、
スッテンテンになるまで貢がされたのでございます。

そして金の切れ目が縁の切れ目となり、
女優人生も私生活も転落の一途をたどり、
かつて「国際派女優」といわれたほど「有名美人女優」の
ナレの果てがご案内の通りの最近のMUTEKIでの
「いかがわしいビデオ出演」となったのでございます。

申し上げるいかがわしいとは「スケベ」とは同義語ではございません。
「スケベ」とは似ても似つかない、ただひたすら生活費欲しさ由に演じた
「マグロビデオ」の作品の内容のことでございます。

「いかがわしい」と言っているのは
「スケベ」とは真逆の作品であるということでございます。

「いかがわしい」とは「本物ではない」という意味なのでございます。
女優という立場であればその作品が売れる売れないは
誰よりも自分の人気、実力の「鼎の軽重」が問われる大事でございます。

脱いだ以上は誰にも負けない「濡れ場」を演じてこそ
女優としての面目が立つ、というものでございます。

しかしMUTEKIのビデオ出演で島田陽子さまは
「金のためには何でもやるが、金さえフトコロに入れば
売れようが売れまいが知ったことではない」という、
その素性がボッタクリバーのホステスのごとき淫売であることを
天下にさらしてしまわれたのでございます。

お可哀想にそれもこれもあの「ロック」をエサに
「女をタラしこむ」しか金を稼ぐすべの無いスケコマシ屋の内田裕也さまに
全財産を入れ上げて素ッ裸になったせいでございました。

「ロッカーの本性はロクでなしのヒモ」の卑劣漢であることを、
真実を天下に知らしめたことが今回の事件の意義であったのでございます。

内田裕也さまにはシャバに出られた暁には
是非AV業界へ参入いただき
男優デビューを飾っていただくよう賜りたいのでございます。

内田裕也さまは71歳でございます。

ただ今のAV業界は「義父が嫁を犯す」シリーズが大好評を博しております。

「おとうさまお願い許して、中には出さないで」と

昼間、息子の嫁に背後から襲いかかってかくのごときセリフを言わしめる

義父というシチュエーションが人気でございます。

「おとうさま、いや、中には出さないで！」と哀願する嫁に

「この世の置き土産に、

わたしの最後の子供を息子の嫁のあんたに産んでもらいたいんだよ」

と平然と言って中出しを強行する義父、

そんな役所が「暴力常習男」の内田裕也さまはピッタリでございます。

ただいまは71歳でございますが人生80年の今日にあっては

まだまだ一線での働き盛りのお年頃でございます。

是非「おとうさまお願い、中には出さないで」を言わせたら

日本一の座を目指して「自立」の第一歩を

ポルノビデオで果たしていただきたいのでございます。

そう遠くない日に同じく裸一貫で出直しをはかっている島田陽子さまと

共演いただき「ヒモ男の真髓テクニク」とやらを

ご開陣いただくことを願いたいものでございます。

いつかは来ることと覚悟しながら、

いざ実際に現実にそれが起きてみると、

どう受け止めていいか分からなくなって頭の中が真っ白になる、

という出来事に遭遇しております。

大地震のことではございません、
浅田真央さまの「恋愛報道」のことでございます。

この眼で実際にその現場を見たわけではありませんが
真央さまが若僧と手をつないで名古屋の街をラブラブに歩いていた、
との報道がなされておるのでございます。

遂に「桜散る」ときが訪れました。
これも生者必滅会者定離の世のことわりの
まぬがれないことと存じております。
それにしても相手の若僧に真央さまの恋人たる資格があるかどうか
「心配」でございます。

かねてから真央さまは
「恋をすることで演技が変わってくる」「表現者にとって恋愛は必要だ」
と恋愛することの必要性が説かれておりました。

安藤美姫さまのようにロシア人コーチと熱愛して日夜ハメまくり
体のラインをより女らしく削ぎ落としなさいというワケです。

そうすることでSEXで白目をムクような絶頂を覚え
妖艶な演技での表現力に反映されて深まる、というものです。

しかし美姫さまの場合はお相手のロシア人コーチは
過去3回の離婚の経験を持ち、尚かつそれらの相手の女性は
全てコーチをした相手のスケート選手であった、
という「趣味を実益とした」手だれの者、でございます。

女性を溺れさせることを趣味とした男のSEXは
ただならぬものではないことは、容易に想像できるのでございます。
その証拠に足上げポーズをした時の美姫さまの股間にクッキリと
小陰唇が大きく肥大した跡の膨らみを見るのは、
手前どもだけでございましょうか。

そうした小陰唇が肥大するほどに激しい出し入れと突きがあつてこそ、
あの美姫さまのウエストからヒップ、
そして太股への悩ましいラインが誕生したのでございます。

それに比べて、でございます。
真央さまの相手の若僧は見るからに心もとないのでございます。

つい先日まではひたすら自分のスティックを握りしめて
一夜の夢にハジケていたであろう、青二才でございます。
経験が明きらかに不足しております。

真央さまを導きイカせるところか、その前に自分の方が勝手にイッてしまう
早漏チンポとしか考えられないのでございます。

相手の若僧はこれまでスケートだけの
未熟な人生を歩んできたのでございますから、
「いたしかたない」といえばそれまででございますが、
どうにもそんな青い若僧が相手ではこのたびの恋愛が
真央さまにとってのプラスに働くとは思えないのでございます。

若僧は本当に真央さまを「白目をムクような絶頂」の世界に導き、

体を空に舞わせることができるのでしょうか。

湯気が出るほど舐めまくり腰が天井に着くほどに

舞い上がる気分になされるか、と問うているのでございます。

若僧は真央さまの魅力を

より輝かせることができないままにただ喰いちラカシたあげく

「やっぱり僕には演技生活しかない」と勝手なセリフをホざいて

トズラをきめこむような気がしてならないのでございます。

ヤリ逃げ、でございます。

だいいち、若僧は真央さまの「センタク板」のような胸を

大きく膨らませることの秘技を

どのように体得しているというのでありましょうか。

自らの義務を遂行するなにもものも持ち合せていないのにも関わらず、

「AVで見て大好きになったパイズリができないペチャパイなんて、

ヤッパリ我慢できない」と真央さまをイジめにかかり

自己の正当化を計るのでは、と心配の種が付きないのでございます。

アスリート同士の若者のことでございます。

これまでお付き合いをして一晩に十回近くはイタス夜もあったでしょうか、

ムチャクチャでございます。

手前どもでさえ真央さまをオカズにしてイキまくったのは

最高でも三回でございます。体力の限界からではございません。

それ以上イタしてしまえば、なにか真央さまが汚れるような気がして

イタスことができなかったのでございます。

それほどまでに神々しかった真央さまを、でございます。
若僧は恐れを知らず一夜に10回近くイタしていたとは、
トンデモナイ野郎でございます。

ああ、とにもかくにもでございます。
こうなったら真央には次から次へと恋愛をしていただいて
「女」を磨いていただくしかありません。

そして破れかぶれになって遂に手前どもに連絡を・・・
といった運命のめぐり合いに期待するしかありません。

世界の最高峰の演技を争うアスリートにとって
「恋愛」が「コヤシ」になるというのは「嘘」でございます。
「恋愛」する、ということは相手に心を奪われることでございます。

心からも体からも集中力を恋愛は奪ってしまいます。
一分一秒もオロソカにできずに鍛錬を積み重ねなければならない身にとって
現役の間は恋愛はご法度というのは、
一流アスリート世界の常識でございます。

何故なら恋愛そのものが人生の苦行の一つであるからです。
相手の若僧はそれなりの人気者でございます。
野郎があれもこれも欲しい、
と手を出す姿を目撃して真央さまの心が千々に乱れて、
といった事態を招くのを危惧するのでございます。

ラサール石井さまが自身の「ブログ」で

「早く彼氏を作るべき、エッチしなきゃミキティやキムヨナに勝てないよ」
と書きヒンシュクを買いましたが、
それこそ本当に大きなお世話でございました。

真央さまに求められているのは「彼氏」ではありません。
真央さまに期待されるのは、SEXの絶頂を知った女の表現力、
とSEXで鍛えられた胸をはじめとする、
女らしさが一段と増したボディ、の形成でございます。

「恋」だ「愛」だとわずらわしい感情に引きずられることなく
そうした「期待され必要なもの」をコーチできる男が「東」に居ることを
無視したままに、名古屋で真央さまが余分な心のザワメキしかもたらさない
青二才の若僧との恋愛関係に陥ったことはかえすがえすも残念でございます。

なにも淫欲だけから申し上げているのではございません。
韓国にもロシアにもいない、その道を教える有資格者のコーチが
我が国に存在しているのにも関わらず、全く本人に連絡が来ないことに
腹立たしい思いをして残念でならないと申し上げているのでございます。

石原プロが分裂しております。
分裂の引き金を引いたのは、噂によれば小林専務の女として名高い
例のテレビ朝日の女プロデューサーという話でございます。

これまでこの女プロデューサー、
虎の威を借りるキツネとなって小林専務の女であるという立場をカサにきて、
石原プロの経営のことごとくに口を出しては
関係者の間ではヒンシュクをかってきた人物でございます。

この女ギツネの出しゃばりもさることながら、自分の女の尻の下に敷かれてニヤけていた小林専務にこそ問題がございました。

この小林専務、これまで巷間では「小政」と呼ばれて「ヤリ手」との評判でございましたが、その実像はどこの会社にもいる単なる大将の小判鯨に過ぎない男でございました。

元はといえばこの小政、伊豆にある日活のゴルフ場で仕事をしていた男でございます。

生来の身の程知らずがアダとなって客との間で災いを起こして首になり、妻子を抱えて路頭に迷っていたところを石原プロの初代社長である樋泉優氏に拾われたのでございます。

樋泉氏の没後、この小政が石原プロの実権を握って今日に至っている訳でございますが、この男の石原プロにおける「実績」などは何程のモノでもございません。

ただ石原プロの実力派専務であるというマヤカシの中で私腹を肥やしてきただけでございます。

お陰で今日では自ら何軒もの飲食店を経営するまでに金を貯め込むことに成功しているのでございますが、肝心のプロダクション経営の方はサッパリでございます。

元々エンターティメントの分野においては何の才覚を持ち合せていない図々しいだけがトリエの男でございます。

スポンサーにたかって金を引き出すのがウマく、
これまで「石原裕次郎何回忌」を大々的にやっては稼いで
収益を上げてきたのでございます。

しかし所詮「センコウで喰うだけの男」でございますれば、
石原プロとして本業であるべき映画製作や次代を担うタレントの
発掘と育成に情熱を注ぐことはありませんでした。

自分の身を大事に、裕次郎が亡くなったとき
残されていたとされる「50億」の石原プロの資産を
ひらすら喰い潰すことに明け暮れてきたのでございます。

そして贅沢三昧の因果応報が身に及び
重度の糖尿病患者となり果てている始末でございます。

このたびの内紛で石原プロの行方は如何なるものとなるでしょうか。
白アリに喰い潰されて無残に倒壊する巨木、
そんなナレの果てとなるであります。

故石原裕次郎の顔に泥を塗った結末を迎えたのも、
もとはといえばこれまで見て見ないフリをしてきた
石原まき子会長のこれまた御身大事の自業自得のことでございます。

「地獄がなんだ、滅びるのが」と故裕次郎が歌い上げました。
石原プロはまさしく今、
これ以上の生き恥をかくことのない滅びのときを迎えたのでございます。

上原美優さまがお亡くなりになりました。

自ら命を絶たれた自殺でございます。

24歳という、まだいくらでも夢と希望もあるお年頃でございましたのに、
残念でございます。

彼女を死に追いやった真相とはどのようなモノであったでしょうか。

ことの真雁はさだかではございませんが

事情通が噂するところの「真相」とは次のようなものでございます。

美優さまが所属していたプロダクション「プラチナム」は

業界では知る人ぞ知る有名な悪徳プロダクションでございます。

経営者は先の海老さまへの傷害事件で名をハセた

「なんとか連合」出身の元暴走族でございます。

このプロダクションのヤリ口、悪どさは

ワルの集まる芸能界でも際立っております。

所属するタレントはほとんどが若い女性でございますが、

その支払われるギャラは「雀の涙」ほど、でございます。

3年前、美優さまが貧乏タレントとしてブレイクした折、

インタビューに答えてタレントになったのは貧しい両親に

家を建ててプレゼントしたいから、と話されておりました。

それから3年余り10本ものレギュラーを抱える人気者になった現在も

その夢の実現をみておりません。

家を建てるどころか大好きな両親への仕送りも
ままならない状態でした。

何故でしょうか、悪徳プロダクションの搾取のせいだと思います。
そうした酷い搾取にあって芸能界で働くことにイヤケをさして
辞めようとしても絶対に引退させてくれないのです。

デビュー以前に交わしたプロダクションに都合の良い契約書を片手に
約束の履行を迫り、いまお前にここで引退されたら、
これまでお前に投資した金が全て無駄になる、
どうしても引退したければその金を弁償しろ、と脅すのでございます。

またお前が勝手に引退して実家に逃げ帰っても後を追いかけて行って
お前どころか、お前の家族も皆メチャクチャにしてやる、
と容赦しないのでございます。

そうした厳しい追い込みをされては、まだ若い娘でございます。
騙された私が悪いのだ、と両親や親戚に迷惑がかかることを恐れて
泣く泣く薄給で働き続けるのでございました。

そうした苛烈な境遇に耐え切れず、
去年の暮れ同事務所の所属タレントだった女の娘が
ビルから飛び降り自殺をして死んでおります。

こうした悪行はプラチナムにとどまりません。
同じく系列の「なんとか連合」の出身者がトップを務める
AV専門のプロダクション「T」にあっては

その悪行には一層磨きがかかってございます。

過日、あるAVの撮影現場にキャスティングされた
「T」所属のAV女優さまが現われました。

女優さまは現場に到着なされても放心状態となって
ヤル気をいっこうに見せませんでした。
どうしたのか、といぶかしがってワケを聞くと、
女優さまは涙ながらに次のような告白をなされたのでございます。

「私のAV出演の契約金は600万円なの。
初めは600万円なら自分が大好きなファッション関係のお店が持てる、
と思い思い切ってAVに出演することに決めたの。

でも、五本、六本とお仕事をして、
最初に貰った600万円以外のお金が貰えなかったの。
どうして？ってマネージャーに聞いたら、お前の契約金の600万円は
前に払ったから、それ以上はもう払えない、という話